



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



すべてを捨てて神のもとへ

徳之島の池上利男さんが終身助祭に

3月21日(水) 徳之島は母間教会(福岡英雄神父主任司祭)で叙階式があり、岡前教会所属の池上利男さんが終身助祭の聖位にあげられた。池上さんは教区で7人目、また徳之島では池上聖行さんに続く2人目の終身助祭となった。

鹿兒島教区(郡山健次郎司教)は3月21日(水)、徳之島の母間教会で、池上利男さんを終身助祭に叙階した。

「頑張ります」と決意を語った。

同教区では初めて、受階者が配偶者を伴い、務めの約束を表明。配偶者も協力を約束した。池上さんは、新助祭挨拶で、「何もかも捨てて神さまのもとに行きます」と宣言。「終身ま

池上さんは1953年、徳之島の天城町生まれ。農業を営む。岡前教会信徒代表、徳之島カトリック教会信徒代表を歴任。2016年9月、終身助祭候補者として選任された。その後、朗読奉仕者(2017年3月)、祭壇奉仕者(同年9月)。この日、終身助祭に叙階されることとなった。



お互いに支え合うことを誓う池上夫妻

叙階式は母間教会で。郡山司教が司式。説教では、助祭の心構えとして「お言葉ですから」とあらためて網を降ろし(ルカ5・4-6)、「すべてを捨ててイエスに従った」(5・11)シモンたちに倣い、素直に神の言葉に心を傾けるよう説いた。また、「終身助祭とは、婚姻

と叙階の二つの秘跡を生きたこと」と郡山司教。「これまでにない人生も、これから生きる。互いの心遣いを通して、結婚生活を豊かにしてほしい」と述べた。

叙階の儀について今回、鹿兒島教区では初めて、ドイツでの典礼に倣い、配偶者同伴で実施した。受階者

の池上さんが、助祭としての務めを果たす約束を表明。続いて妻、郁代さんが、叙階される夫の奉仕の務めを支えることを約束した。

閉祭後の祝賀式では、池上さんが「何もかも捨てて、神さまのもとに行きます」と宣言。「どこにでもいきます。そういう気もちでいっばいです」と受階の喜びを表し、「終身まで、頑張ります」と挨拶した。この日、約130人が参加。鹿兒島市内や奄美大島

最期まで司祭の務めを果たして

笑顔の宣教師・牧山田一神父帰天

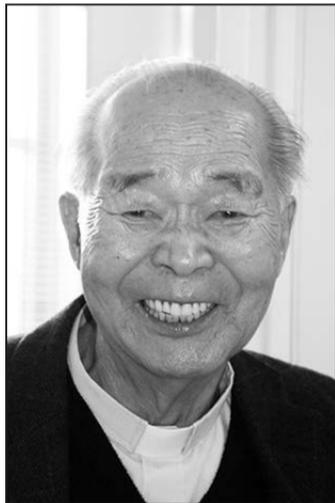
ヨゼフ牧山田一神父(阿久根教会)が3月19日(月)19時33分、急性心不全のため阿久根教会で帰天した。85歳だった。

牧山神父は、1932年5月1日、佐賀県は東松浦郡鎮西町馬渡島に7人兄弟の長男として生まれた。1952年に福岡聖スルピス

福岡教区司祭として叙階された牧山神父はその後、久留米教会、建軍教会で約11年間働き、1972年11月に福岡教区と鹿兒島教区との人事交流で指宿教会に着任した。1981年から枕崎教会主任司祭を務めた

牧山神父は1983年から司教館勤務となり聖血礼拝会ヨゼフ修道院、広報、召命を担当。その後は1986年聖心教会、1990年には再び司教館、そして1991年から種子島、指宿教会、吉野教会主任司祭を歴任し、2014年から阿久根教会で透析を続けながら宣教師に全力を傾けていた。

大神学院入学、司祭に叙階されたのは1961年10月5日のこと。場所は日本最古の木造教会と言われる故郷・馬渡



神父が最期を迎えたのは、阿久根教会での通夜に臨むときのこと。神父の霊名の記念日であった。透析をしながら、酸素吸入器を付けての働きぶりであったが、普段と変わらない様子であったため、阿久根教

会の信者たちにとっても突然の訃報となった。口下手だがいつも穏やかで満面の笑顔で信者たちと接した牧山神父の仮通夜は3月20日、泉浩二司教総代理の司式で、通夜は21日、前総代理の小川靖忠神父の司式、そして葬儀と告別式は22日、郡山健次郎司教の司式でいずれも鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂で荘厳に行われた。

その後は、親族を代表して牧山神父の令弟・牧山軍司さんが、幼い頃の交流からその人となりを振り返った。軍司さんは「幼い頃は怖い兄だった。それが優しい兄になって、私の結婚やその他に力を貸してくれた。支えてくれた。鹿兒島の司祭になって心から良かったと思う」と挨拶した。告別式の最後には、司祭団が「サルヴェ・レジーナ」を合唱し、神父を神の元へ送り出した。

などからも司祭、信者が祝いに駆けつけた。式後の祝賀会では、山羊鍋など、徳之島の郷土料理が振舞われ、シマ唄や踊りも披露。新終身助祭誕生の喜びを分かち合った。

鄭成淙神父

3月1日付で、教区に仁川教区から司祭が派遣された。鄭成淙(チョン・ソンチョン)神父、37歳。忠清南道(チュンチョンナムド)出身の鄭神父は、2009年1月8日、富川



カトリック北薩信徒大会

5月20日(日) 出水教会

テーマ 召命-呼ばれています- 講師 郡山健次郎司教 13:00 受付 13:30 開会・講演 15:00 ミサ 堅信式

教区人事

坂本進神父(教区本部・枕崎教会担当)は、阿久根教会主任司祭 朴利奎神父(始良教会助任司祭・溝辺教会担当)は、溝辺教会主任司祭 ※いずれも4月22日付け

修道会人事

田端孝之神父(コンベンツアル会・仁川修道院・仁川教会協力司祭)は4月1日付け、奄美修道院付き

修道会便り

純心聖母会出水修道院 純心聖母会は3月31日付け、出水修道院の廃止を発表した。

ありがとう！牧山神父様(告別式弔辞)

優しさで笑顔忘れません

教区聖職者代表 石神秀人

牧山神父様、1961年10月の司祭叙階とは、私が生まれる以前なので、神父様の叙階年数にも達しない私が、最後の言葉を担当してよろしいものか悩みました。でもこれも神様からの願いであれば、お許しください。今回は最後の宣教地であった阿久根での神父様の様子を振り返ってみたいと思います。

阿久根教会着任は2014年(平成26年)4月6日でした。吉野教会からの転任でした。阿久根では約4年の活動となりました。まさにイエス様が送られた公生活の期間を阿久根で過ごされたわけですね。

神父様は3月19日午後7時33分、急性心不全のために帰天されました。84歳でした。この日は、元阿久根教会信徒会長の浜崎敏行さんの通夜の日でした。教会での通夜には親戚、地元の方など多くの人が詰め掛けていました。18時45分閉式予定でした。

またこの日は、聖ヨセフの祭日でもありました。そこでミサも考えられていたようです。神父様は自分で洋服を着て、いつものように司祭館から香部屋に向かわれる途中で急に倒れられました。意識もなく、顔色も悪く、心臓マッサージも施しましたが回復せず、目は閉じたままでしたので、すぐに救急車を手配しました。しかし間もなく病院で死亡が確認されました。自

分の霊名でもある聖ヨセフの記念日に天国に旅立たれた神父様、神様からお呼びかけだったのだろうと思いましたが、また苦しむことなく旅立たれたことにも神様に感謝です。

神父様は阿久根での宣教において、温厚で誰からも好かれる神父様でした。使命感は強く、鹿兒島での会議等もできる範囲で参加されていきました。というのも阿久根では着任時から人工透析をされており、火曜、木曜、土曜日に近くの病院に通院されていました。さらに1年ほど前から酸素供給装置をつけられることになり、外出時も簡易携帯ポンプのカートを引きながら移動されていきました。置かれた場所でも頑張る、まさしく牧山神父様の生き方でした。

最近、体の具合が悪くなって来られたのを感じていました。説教の時間も10分が3分ほどとだんだん短くなってきました。補聴器、メガネの忘れ、難聴、ミサの順序の欠落などもひどくなつていきました。さらに先日、亡くなられた時に病院の先生から「タバコの吸いすぎで肺が真っ黒」と指摘されました。昔はタバコがお好きだったようです。肺が悪くなり、呼吸器をつけるなどまさに故郷・馬渡島の先輩・山口神父様とご一緒でした。

相手への心配りは相当配慮されていました。聖園老

いされていたことが、私にとつては驚きであり、感心させられずにはいられませんでした。吉野時代から長きにわたり神父様の身の回りのお世話、大変ありがとうございました。神父様にとつてはとてつもない存在だったと思います。

「唐湊には行かん」、つまり生涯現役を願われた神父様でした。何度か引退の要請はあったようですが、ひたすら断り続けられました。どんなに疲れていてもミサを休むことはできないと無理をしてもごミサを立てられていた様子が今でも目に浮かびます。

阿久根教会は小さな教会でしたので、付属の幼稚園もなく、なんとか最後まで主任司祭をまっとうできたのではないのでしょうか。しかしこれも神様のはからいです。神様、司教様、ありがとうございます。短い期間のお付き

吉野幼稚園卒園生父兄代表 森尾 勇

本日、ここに前・吉野幼稚園園長・牧山田一先生の告別式が執り行われるにあたり、吉野幼稚園卒園生の父兄を代表し謹んでお別れの言葉を申し上げます。

一昨日、午後7時30分、山口先生からの牧山園長の突然の訃報の知らせにあらためて世の儂さを痛感させられております。

ご家族、ご親族の皆様方のご心中を察しますとき悲しみはいかばかりと胸の塞がる思いでいっぱいでございます。

牧山園長先生とのご縁は平成20年3月、子ども入園の時からですね。初めての父兄参観で静かに教具に

合いでございましたが、誰からも信頼される司祭であられたと思います。信者の心をよく理解され、自分を決して前に出さず、信者を立てていただいていたらしめたような気がいたします。これは牧山神父様に神様が下さった宣教方法で、

他の人にはとても真似のできない生き方であったと思います。信仰の島・馬渡島で生まれ育った精神をしっかりと心に刻まれ、ぶれることなく生きられた方です。神父様の生き方が宣教であったように、その存在がまた一

人この世から消えられたことは残念ですが、これからは天国が神父様の新しい生き方のスタート地点です。みなさん祝いましょ。神父様のために。その希望を持って心から感謝申し上げます。聖職者代表の挨拶とします。

+KABAYAN SEKSYON+
Jesus: Huwaran ng
Mapagpakumbabang Paglilingkod

Sinasabi sa atin ng Ebanghelyo ayon kay San Juan na sa Huling Hapuna'y tumayo si Jesus mula sa kanyang inuupuan at nagumpisang hugasan ang paa ng kanyang mga alagad. "Ang pagribig niya para sa kanila ang nagpakilos sa kanyang pagsilbihan sila nang mapagpakumbaba" ang mga salitang ginamit ng sulat pastoral ng CBCP para sa 2018 upang ihayag ang tunay na paglilingkod ni Jesus.

"Habang nakaluhod sa may paanan ng kanyang mga alagad, tinanggal ng Panginoon ang pambihis na panlabas at isinuot ang twalya ng paglilingkod".

"Tanghal ang kanyang halimbawa ng pagpapakumbaba, hinugasan niya ang kanilang pagod at maruming mga paa. Nang lumao'y pinagsabihan niya sila na gawin ito sa isa't isa. Isang halimbawa ang ibinigay ko sa inyo upang gawin din ninyo ang ginawa ko sa inyo" (Jn 13:15). Paglilingkod ang layunin ng buong Simbahan-mapa-laiko man, pari, o relihiyoso. Sa totoo lang, ang pagbabahagi ng Mabuting Balita ay nangangahulugang paga-abot at pagtahak sa mga malalayong lugar, dito sa ating bansa at sa kalapit-Asya."

Bilang Simbahan, "maingat tayo na hindi maisama ang sinumang nangangailangan ng ligaya at pag-asa na dala ng Ebanghelyo. "Sa mga paligid!" Ating tupiin an gating mga manggas at magtrabaho! Ang Simbaha'y parang ospital ng paunang lunas!"

Kaya nga ipinakita ng Panginoon Jesus ang halimbawa ng paglilingkod at may kapakumbabaaan sa atin para tayo rin ay matuto rin na makapaglilingkod sa ating kapwa, lalong-lalu na sa kapwa nating nananampalatayang Kristiyano Katoliko.

Ang Simbahan ay patuloy na ginagampanan ang iniwang halimbawa ng Panginoon Jesus ang paglilingkod na may kapakumbabaaan at kagalakan na pagsisilbi sa kapwa. Sa paggawa natin nitong halimbawa na ipinakita ng Panginoon Jesus ang Simbahan ay patuloy na nagiging saksi sa kanya.

Katesis pas sa Taon ng mga Pari at Relihiyoso
 (Fr. Dino Orolfo)

年、お正月の「餅つき大会」。昔ながらの火起こし、蒸籠で炊き上げ、杵と臼で作ったお餅に「今年も皆様方が良い年でありますように」と願って教会に奉納してくださったこと。

第二弾として取り組んだのが秋季大運動会の杉枝で作る入場門の緑門に「園児もお山の杉のようにスクスクとまっすぐな人になりますね」と満面の笑顔で話していた牧山園長先生の姿が思い出されます。

クリスマスではミサ後のパーティーで、牧山先生の故郷から取り寄せた「ヒラマサ」を先生ご自身がさばき、皆様方にごちそうし、信者様や私たちが「美味しい。美味しい」といただくのを見てはとても喜んでいましたね。

ある年のクリスマスではお父さん方で赤飯を炊いたら、「なんて素敵ないブの夜でしょう」ととても喜んでくださいましたことも懐かしい思い出です。

阿久根教会へ転勤されてからは年に一回しかお会いできなくなり、先日、3月9日に訪問しましたがお会いすることはできませんでした。お話を聞いたとき、その夜、お電話をいただき、元氣そうなお声に私も「来月、少し暖かくなりまししたら、お弁当下げてお伺いしますの、阿久根の海が見えるお部屋でお食事しましょうね」とのお約束もかなわなくなりまして。

牧山園長先生とお会いしてから10有余年にわたり、ご厚意を賜りまして誠に感謝に堪えない次第でございます。

私たちには何時もニコニコと笑いながら元氣なお顔を見せておられましたが、もうそのお顔に接することもできなくなりまして。誠に痛恨の極みでございます。

今、ここに祭壇と向かいありし日のご温顔を目の当たりにいたしますと吉野幼稚園のマリア様の近くに立ち、園庭を元氣よく走る子供たちを温かい眼差しで見守るお姿が彷彿としてまいります。万感胸に迫り、申し上げる言葉もありません。ひたすらにご冥福をお祈り申し上げます。

牧山園長先生の教えと笑顔忘れません。どうぞ「ありがとう」を添えて。平成30年3月22日

ミサと競技会で絆を深める

全島あげて合同復活祭

奄美大島

奄美大島では、復活の主日である4月1日(日)、「奄美大島合同復活祭」が浦上教会であった。同島の



奄美らしさをたっぶりの奉納

全小教区が参加。集った信者たちは主のご復活を、世代や小教区を越えて、共に祝い喜んだ。

奄美大島では以前から復活の主日に、同島の全小教区が集い、合同復活祭を催してきた。一時途絶えたが、世代や小教区を越えた信者間の親睦と一致を目的とし、昨年、復活。今年も全小教区が参加、200人が浦上教会に集い、復活の主日・日中のミサを野外で実施した。司式は郡山健次郎司教。司教は説

司祭の姿を学ぶ カテドラルで聖香油ミサ

3月28日(水)午前11時から鹿兒島カテドラル・ザビエル教会で聖香油のミサがあり、30人ほどの司祭たちが司教を囲んでミサをささげた。司祭職制定を記念し、司教と司祭の絆の強さを表すこの日のミサでは、

その中で小教区に持ち帰られる病者のための油、洗礼志願者の油、聖香油がそれぞれ祝別、聖別された。ミサ中説教した郡山司教は、この日は特に司祭団に向けて熱いメッセージを送った。司教は司祭たちにイエスの遺言である「ミサ」を大切にしてほしい、「教会の祈り」は義務、日課としてほしい、キリストが



「主」であることを心に刻み、教会やキリストの意思より自分の思いを前に出さないようにしてほしいと強い口調で語った。その上で司祭としての生き方を確立するようにと願った。説教の後には、司祭の約束を更新し、司教、司祭のために祈りがささげられた。

教で、かつて頑なに洗礼を拒んでいたものの、終に病床で受洗したという人の語った「僕の人生は書き換えられた」との言葉を紹介した。

そして、この日の福音朗読から「いつも新しい練り粉のままでもいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい」(一コリ5・7)を引き、絶えず「わたしの古いパン種とは何だろうか?」と各々が自問するよう勧告。「わたし一人ひとりが、『書き換え』という『復活』を日々試み、これを努めよう」と説いた。

奉納では、三味線とオルガンによる伴奏で「農村小

唄」を歌唱。フダンソウ、ハンダマ(スイゼンナ)、タイモ、コーシヤ、黒糖焼酎など、島の物産が献げられた。

ミサ後、小教区ごとに昼食。持ち寄りの弁当を互いに分かち合い、舌鼓を打った。昼食後のレクリエーションでは、釣り、輪投げ、ボーリング、綱引きを楽しみ、小教区で競った。瀬留が優勝し、トロフィーと景品を獲得した。

短 信

▼鴨池教会で二つの祝い
3月18日(日)鴨池教会では、同教会の現聖堂献堂50周年と主任司祭泉浩二神父の司祭叙階25周年(銀祝)に感謝するミサをささげた。

ミサには郡山健次郎司教のほか泉神父の叔父にあたる



る押川壽夫那覇名誉司教なども駆けつけ、大勢の信者たちと喜びを共にした。

▼永山神父金祝ミサ
3月21日(水)ザビエル教会で永山幸弘神父の司祭叙階50周年(金祝)を記念するミサがささげられた。この日のミサは永山神父と共に活動した連合壮年会有志の立案で実現したもの。聖堂には120人余りの信者が駆けつけた。

司教執務室便り

聖母月の思い出



「若草もゆる 春の野辺に 一もと咲ける その白百合」五月に「春の野辺」という歌詞は日本ではよくわかないが、五月というのは、あちらでは寒く冬が終わって、眠っていた自然界が一斉に芽吹く春。一年で一番美しい花の季節なのだという。そういうわけで、五月こそマリア様にふさわしいということだ。聖母月。なるほどと思う。

とここで、聖母月といえは忘れることのできなない思い出がある。五月といえは奄美の山野では自生のテッポウユリが咲きたす季節。侍者仲間と畑の境界線沿いに咲いている白百合を二抱えも採って教会に帰ろうとしたときだ。「誰だ、人の畑からユリを盗るのは!」突然目の前に畑の持ち主がヌツとあらわれて度肝を抜かれた。

「教会に:」恐る恐る答えると「あ、教会:ならいい。」信者の叔父さんだったのが幸いして放免された。教会では掃除当番のおぼ

さんたちが喜んで受け取り、マリア様の前に飾ったの言うまでもない。なんだか誇らしい感じがしたのも心に残っている。

こんな昔の話を書きながら、ふと、聖母月と聞いて、今の子供たちは何を思い出すのだろうと思った。そして、先月の奄美での合同復活祭のミサが思い起こされた。あの時、侍者を務めたり聖書朗読に駆り出された子供たち、それにミサ後のゲームや綱引きで大活躍した白百合の寮の子供たちが数十年たつて「復活祭」と聞いたとき、あの時のことが応援の声とともに蘇ってくるに違いない。マリア様や教会につながるこうした思い出は尊い。

班集会にしても復活祭の遠足にしても簡略化が進んでいるのは自然の流れだとしても、何とか子どもたちのための思い出作りをしてほしいと思う。教会に子供が一人しかいないとしても、その友達を複数招いて、信者でなくても天使の服装をした花散き娘や担ぎ手を大勢集めての小教区レベルの聖母行列ができれば素晴らしい。これも将来を見据えた新しい福音宣教と言える。子どもたちにとって思い出に残る聖母月であるよう祈りたい。

会と催し 5月

3日(木) 聖フィリポ 聖ヤコブ使徒
4日(金) 臨床パストラル研修センター主催研修会・教区本部・6日
6日(日) 復活節第6主日
▼世界広報の日(献金)
福音宣教はわたしたちの使命です。「世界広報の日」は、この福音宣教の分野の中でもとくに新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画、インターネットなどの広報媒体を用いて行う宣教について、教会全体で考え、反省し、祈り、献金をささげる日です。日本のようにマスコミや技術の進歩している国で、広報が社会や文化に及ぼす影響ははかりきれないものがあります。広報の重要性を再認識し、広報を通して社会と人々にどのようにかかわっていくことができるか、また、実際どのようにかかわっているかを考えることが大切です。

「世界広報の日」は、第二バチカン公会議で定められ、1967年以来、毎年、教皇メッセーじが出されています。なお、多くの国では復活節第7主日をこの日に定めています。

ザビエル上陸記念祭実行委員会・教区本部・19時

▼聖体礼拝・カテドラル
パストラル黙想会・マリア山荘・13日
主の昇天

▼聖マリア使徒

12日(土) 教区巡礼委員会・教区本部・19時

13日(日) 教区巡礼委員会・教区本部・19時

14日(月) 教区巡礼委員会・教区本部・19時

15日(火) 教区巡礼委員会・教区本部・19時

16日(水) デイノ神父叙階記念(1998年)

17日(木) 正義と平和協議会・教区本部・13時

18日(金) 正義と平和協議会・教区本部・13時

19日(土) 正義と平和協議会・教区本部・13時

20日(日) 聖霊降臨の主日

▼カトリック北薩大会・出水教会・13時

▼デイノ神父霊名(シエナの聖ベルナルディーノ)

21日(月) 教区墓地委員会・教区本部・15時

22日(火) 教区墓地委員会・教区本部・15時

23日(水) 子どもと女性人権相談委員会・教区本部・15時

24日(木) 聖マリア学園理事会・教区本部・10時

25日(金) 聖マリア学園理事会・教区本部・10時

26日(土) 国分幼稚園落成式・10時30分

27日(日) 三位一体の主日

▼鹿兒島カトリック連合壮年会主催講演会「福音宣教と信徒の役割」(講師・森一弘司教)・ザビエル教会1Fホール・13時・16時

▼オリブの会・教区本部・14時

▼タム神父叙階記念(2007年)

31日(木) 聖母の訪問

▼祈りの意向

【祈祷の使徒会】

福音宣教 信徒の使命
日本の教会 子どもの貧困の解消

聖心教会の改修に感謝して!

小さく貧しい祈りの集い 森島実江

ありがとう、神さま
ありがとう

鹿児島カトリック教区報
3月号に「聖心教会が受賞
第5回「ごしま・人・ま
ち・デザイン賞」のタイ
ルで掲載されていました。

鹿児島県から都市デザイン
部門において大賞を受賞し
た教会は工事以前とは異な
り、正面入口に車椅子や足
の不自由な方のためにスロ
ープが出来、扉は木の引き
戸になりました。中に入る
と沈下やひび割れのひどか
った床はグレーのひし形・
四角の床で彩られ、座席の
床はホワイトで統一、クロ
スが垂れ下がっていた天井
はシルバークレーが微妙に
違う二重構造で光が差し込
むなど工夫がなされ、大変
美しく柱の色と天井がマッ
チしています。

ロアーでは新郎新婦の席や
棺を置くことができるよう
になり、最上フロアーはゆ
とりができ、叙階式など祭
壇を囲んで多数の司祭団で
ミサができるようになりました。

十字架、聖母像、ヨゼフ
像の壁は、剥がれること
のない穏やかな美しい金箔に
塗られ、ゆるしの部屋は車
椅子でも入ることが可能、
耳が不自由な方のために大
きな声でも話せるように扉
がつけられました。傷みが
ひどく危なかつた鐘楼は頑
丈になり、白く塗り替えら
れ、傾きかけていた信愛幼
稚園側の壁も頑丈に整備さ
れました。

また湿気の多かつた香部
屋は風通しが良くなり、照
明はLEDにし、天井・
床・色とのバランスが取
れ、天井に光が差し込むと
幻想的な美しさを味わうこ
とができます。

聖心教会は神の家、一つの家
族として食卓を囲む家、主
に愛され、恵みで生かされ
た私たちが、目に見える信
仰の遺産を修復し継承でき
たことは誇りであり、大き
な恵みでした。たくさん
の祈りやごミサで支えてく
れた方々、またご寄付をく
ださった方々に心から感謝
申し上げます。修復が終わ
るまで様々な出来事があり
ましたが、県から賞をいた
だいたとの朗報を耳にし、
感謝の祈りをしていく最中
「神はそれを善に変え、今
日のようにしてくださった
のです」と、みことばが心
にスーッと入ってきまし
た。

教会が賞をいただいたの
は、労苦を共にした共同
体、工事関係者、霊的に物
理的に協力し支えてくださ
った方々への感謝として目
に見える形で表現された主
からのプレゼントをいただき
たいと強く感じました。

町の中心にそびえ立つ教
会なのでいろんな方が訪れ
て「記念に」と写真に収め
る姿が多く見られます。ど
ちらからですかと尋ねると
「観光できました。綺麗な
教会ですね。本当に立派で
大きな教会ですね」と話さ
れます。このような話を耳
にするたびに、「修復して
よかった。神様ありがとう
」と心の中で祈ります。

私がつい口ずさむ聖歌を
紹介します。

神様といつも一緒
朝が来て夜が明ける
太陽のプレゼント
ありがとうございます
ありがとうございます
ありがとうございます
私たちのため

「とそ子ども食堂」スタッフ一同から

信徒の皆さま、子ども食堂のことをお心にとめていた
だき感謝します。今、全国には2,300近くの、鹿児島県
では24の子ども食堂が運営されています。

神奈川県のあるカトリック教会の有志が営んでいる子
ども食堂では一回につき100人以上のお客さんが来てい
ますし、ここ鹿児島市にも100人來ている子ども食堂が
あると聞きます。物価や保険料なども値上がりして、さら
に厳しいやりくりをしなければならない家庭が増えて
くるでしょう。

子どもたちの身体的な健やかな成長と学力の向上を阻
み、子どもやその親たちの孤立を生んでいるのが、相対
的貧困です。とそ子ども食堂も2年目に入りますが、継
続して開催していくつもりです。皆様のご協力を今後と
もよろしく願います。子ども食堂のホームページを
設けましたので、ぜひご覧ください。

アドレスは<https://tosokodomo.jimdo.com/> です。

KJJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 5月号

先日、ある信徒の方から
「正義と平和協議会は『解
放の神学』の影響を受けて
いるのではないか」と指摘
された。会話の脈絡から判
断すると、その方は「解放
の神学」に対して否定的な
評価であった。この指摘は
「私にとっての解放の神
学」を考える良いきっかけ
となった。一般に解放の神
学とは、中南米に現れたカ
トリック神学の新しい流れ
で、教会は民衆とともに歩
むべきであり、現世での貧
困・搾取・差別から民衆を
解放する立場であると言わ

れている。(広辞苑)これ
をどのように評価するか、
カトリック教会において
は、賛同と警戒の両方に分
かれていくようだ。警戒す
る方は、まるで異端である
かのように危険視する。
「福音的解放を政治的経済
的解放に還元している」
「無神論のマルクス主義の
社会科学的分析を利用して
いる」と批判する。日本に
おいて、解放の神学を無条
件に適用できるかという
課題がありそうだ。私たち
に必要なことは、先ず解放
の神学を先入観を持たずに

正しく理解し、その意味と
信仰との関係を正確に把握
した上で、この神学を正し
く評価することであり、こ
のことは、現代を生きるキ
リスト者にとって重要な課
題の一つであると言えるだ
ろう。(相馬信夫 元「正
義と平和協議会会長」)
解放の神学は、南米にお
いて、多数の貧しく小さく
された人々の生活を具に見
て、これらの人々と連帯し
て生きようとしたキリスト
者たちが、現実の中から紡
ぎだした知恵であると思
う。学者たちが創設した抽
象的な神学ではない。解放
の神学の貢献者の一人であ
るグティエレス神父は、こ
の神学の目的を「自らを神

のこぼの裁きに委ね、信
仰を考えぬき、そして我々
の関わりをいっそう根源的
で、全面的で、実効的なも
のをとすることを通して希
望を語っていく」ことであ
るとし、その目標は「関わ
りが引き起こす新しい諸問
題に即して、新しい視座か
ら、キリスト者の生活の重
要テーマを見直していくこ
と」だと言う。(「解放の
神学」序文)

この目標は第三世界のみ
ならず、先進国に住んで
いるキリスト者も共有でき
るのではないだろうか。聖書
を徹底的に読み込み、イエ
スとはどんな方か、イエス
のように生きるためにはど
うすればよいのかを日々の

生活の中で考えぬき実践し
ていけば、先進国のキリス
ト者も問題意識を共有でき
るはずだ。非正規労働者が
3割、年収200万円以下が
2割、相対的貧困率が約
15%の現代日本において、
貧しく小さくされた人々の
側に立つ神学を、現場から
どのように築いていくかが
問われている。日本におけ
る「解放の神学」の可能性
は充分にあると思う。(紫
原教会 山下和実)

定例会の案内(毎月第3
土曜日) 日時 5月19日
(土) 13時~15時 場所
教区本部 内容 原発・
改憲についての情報交換
その他